

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団  
平成 22 年度 事業報告  
(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

事業概要

平成 22 年度事業計画に基づき、当財団の設立趣旨及び財団設立に至った経緯等を十分に踏まえつつ、事故、災害等における心のケアと身体のケア及び地域社会の安全構築や事故、災害が起こった際の備えといった観点から「安全で安心できる社会」の実現に寄与する事業を実施した。

上智大学グリーンケア研究所の公開講座及び人材養成講座、京都大学「社会基盤安全工学講座」、あしなが育英会、関西いのちの電話、神戸いのちの電話並びに公募による助成を行ったほか、財団主催による「安全セミナー」を平成 21 年度に引き続き実施し、初年度の事業の枠組みを維持した事業展開を行った。

そのうえで、地域社会の安全構築の重要性を啓発する事業や事故、災害後の様々なケアに関する事業に特に力点を置き、尼崎駅における「救急フェア」と財団主催の「こころのセミナー」を新たに実施した。

1 心身のケアに関わる事業

(1) グリーンケアに関する活動への助成（上智大学グリーンケア研究所への助成）

公開講座「『悲嘆』について学ぶ」への助成

悲嘆（グリーン）やグリーンケアの社会啓発だけでなく、実際に悲嘆を抱えている方々にとっての癒しの場となっている上智大学グリーンケア研究所における公開講座「『悲嘆』について学ぶ」に対し、寄付助成を行った。

この寄付講座により、平成 22 年度においては、第 6 期（平成 22 年 4 月～7 月）と第 7 期（平成 22 年 10 月～平成 23 年 2 月）が開講され、様々な分野の講師により多様な視点から悲嘆やグリーンケアなどに関する講演が延べ 30 回行われた。受講希望の申し込み者数は回を重ねる毎に増加しており、悲嘆やグリーンケアに関心のある一般市民の方々をはじめ、実際に悲嘆に陥られている方や事故や病気による死別を体験した方々と接する医療関係者など多様な人々が受講されていることから、同講座が普及啓発や悲嘆、グリーンケアの知識の伝達といった面で重要な役割を担っているのみならず、多くの方々の貴重な「癒しの場」となっていることが窺える。

人材養成講座への助成

グリーンケアに関する専門知識を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーンケアに関わる市民ボランティアを養成し、誰もが安心してグリーンケアを受けられる社会の構築を目指す上智大学グリーンケア研究所における人材養成講座に対し、寄付助成を行った。

平成 22 年度においては、グリーンケアの基礎知識や基礎的な対人援助スキルを習得することを目的とした「グリーンケア基礎コース」を 43 名が受講した。また、基礎コースを修了されてグリーンケアに関わる臨床現場で必要な知識、技術を習得することを目的とした「グリーンケアボランティア養成コース」を 36 名が受講した。

(2) 心身のケアに関する普及啓発活動

事故、災害及び病気等により苦悩や苦痛、悲しみを抱える方を支え、お互いに助け合える社会を目指し、「いのち」について深く考える講演等を通して、生きることの大切さやすばらしさを実感していただけるような場として、当財団の主催により「こころのセミナー」を開催した。

<実施概要>

テーマ 「いのち」を考える ～支え助け合う社会をつくる～  
日時 平成23年1月23日(日) 13:00～16:30  
会場 尼崎市総合文化センター アルカイクホール・オクト  
内容 基調講演 「『いのち』を考える ～支え助け合う社会をつくる～」  
 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實  
 あしなが育英会における活動紹介 「親を亡くした子どもたちと寄り添って」  
 あしなが育英会 あしながレインボーハウスチーフディレクター 八木 俊介  
参加者 一般市民の方々など約300名

2 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 地域社会の安全構築に関わる研究への助成(京都大学「社会基盤安全工学講座」への助成)

平成20年4月に開設され社会基盤設備の安全性向上に関わる研究を行う京都大学「社会基盤安全工学講座」に対し、平成23年度分の寄付助成を行った。

<研究テーマ> ・モニタリングによるリスク評価と新しい安全性評価指標の構築  
 ・実務に適合した合理的な設計手法、維持管理手法の構築に関する研究

(2) 安全に関する普及啓発活動

「鉄道安全セミナー」の開催

地域社会における安全構築の重要性をふまえ、市民生活を支える公共交通機関である鉄道を素材に「安全」を考える機会として、当財団の主催により「鉄道安全セミナー」を開催した。

<実施概要>

テーマ 身近で安全な鉄道に向けてわたしたちができること  
日時 平成23年3月10日(木) 13:30～16:30  
会場 尼崎市総合文化センター アルカイクホール・オクト  
内容 講演 「失敗の心理学～うっかりミスメカニズムと対策～」  
 立教大学現代心理学部教授 芳賀 繁  
 講演 「鉄道の安全利用促進による事故防止  
 ～公共交通のプレーヤとしての旅客と市民の行動の重要性～」  
 東京大学大学院工学系研究科准教授 古関 隆章  
参加者 一般市民や行政関係者、運輸事業者の方々など約760名

「救急フェア」の開催

事故、災害時における一般市民の方々による初期対応、初期救護(ファーストエイド)の重要性を啓発する活動の一環として、尼崎市消防局の協力のもと、西日本旅客鉄道株式会社と共催で初めての「救急フェア」を開催した。

<実施概要>

日時 平成22年10月30日(土) 13:00～16:30  
場所 JR尼崎駅北側駅前広場特設会場  
内容 AEDの使用や心肺蘇生法の体験コーナー、 非常ボタン体験コーナー、  
 救急資機材の展示と救急相談コーナー  
参加者 延べ約500名

### 3 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

#### (1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへのこころのケア活動の一環としてあしなが育英会が主催している「高校奨学生をつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプをつどい」に対し、寄付助成を行った。

関西地区「高校奨学生をつどい」は、平成22年8月9日から8月12日まで開催され、220名の奨学生が参加するとともに、大学等に通う先輩奨学生たちが「つどい」のリーダー役や運営スタッフとして多数参加した。

小・中学生を対象とした「キャンプをつどい」は、平成22年8月25日から8月27日まで開催され、39名の子どもたちが参加し、50名を超える学生ボランティアの方々がファシリテーターとして参加した。

#### (2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

財団設立の経緯を踏まえ、福知山線の沿線地域の方々の精神面に関わるケアのより一層の充実・増進を図るため、関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行った。

### 4 公募助成事業

平成21年度に引き続き、大規模な事故、災害が起こった際の備えやその後の心身のケア並びに公共交通機関における事故の防止といった視点から、「安全で安心できる社会」の実現に寄与しうる活動と研究を対象とした公募助成の募集を平成22年10月1日から11月28日まで行い、審査選考の結果、活動助成20件、研究助成10件の合計30件に対し、寄付助成を行った。

なお、平成23年3月29日、「2010(平成22)年度 公募助成贈呈式」を開催し、活動助成と研究助成の対象団体や研究者の方々に対し、理事長より贈呈書をお渡しした。

#### <実施概要>

	応募	採択		記事
	件数	件数	金額	
活動助成	67件	20件	1,606万円	採択には継続助成6件、585万円含む
研究助成	39件	10件	1,369万円	
合計	106件	30件	2,975万円	

### 5 その他

地域社会との関わりを深めるため、市民運動立花地区推進協議会主催「防災防犯講習会」に協力、協賛を行うとともに、平成21年度に公募により助成を行った計17件の活動助成先をはじめ、当財団からの寄付助成により行われている団体を訪問し、関係強化等を行った。

#### 財団運営に関わる事項

### 1 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

#### (1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：評議員の選任、評議員会長の選定、平成21年度計算書類等の承認等

## (2) 理事会

開催回数：3回

決議事項等：理事長による業務執行状況の報告や財団のあり方に関する議論等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成 21 年度事業報告及び計算書類等の承認、評議員会の招集、事業審査評価委員会委員の選任及び同委員会規約の改正、平成 22 年度募集公募助成の基本方針並びに同助成先の決定、平成 23 年度の助成先の承認、平成 24 年度以降の公開講座に関する上智大学との協議について、平成 23 年度事業計画及び収支予算、基本財産の運用の基本方針 等

## (3) 事業審査評価委員会

開催回数：6回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成 21 年度助成事業の確認・評価、平成 22 年度募集公募助成の募集内容及び同助成先の審査、財団主催事業（こころのセミナー、安全セミナー、救急フェア）の実施に関する指導・助言、平成 23 年度の助成先の審査、助成期間終了後の公募助成先の活動・研究成果の公表について 等

## 2 その他

### (1) 基本財産の運用

基本財産 10 億円について、西日本旅客鉄道株無担保社債（20 年物）により継続して運用を行うとともに、新たに西日本旅客鉄道株から基本財産増額分として 5 億円を受け入れ、国債（20 年物）により運用を行った。

### (2) 広報活動および情報公開

当財団のホームページにより、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の紹介を行ったほか、財団事業を行うに際してプレス発表、JR 主要駅へのポスター・パンフレット掲出等を積極的に行うとともに、財団の活動内容を紹介した冊子「JR 西日本財団NEWS」を 22 年度は 3 回（平成 22 年 4 月、11 月、平成 23 年 3 月）発行するなど、財団及び財団事業の認知度向上のための広報活動に努めた。